

2020年3月21日(土)

## 「五箇荘の今むかし 大和川の北と南と」

お話は 苅田村寺田家文書研究会主宰・苅田土地改良記念コミュニティ振興財団理事長の

寺田孝重さん

3/14 新金岡市民センターで開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染予防のために休館、3/21に延期。休館延長のため、大阪市住吉区の苅田土地改良記念会館で実施していただきました。苅田や我孫子<sup>かりた あびこ</sup>など地元の方や、庭井新田の研究をされている柏原市立歴史資料館の方も一緒に、いい勉強になりました。

寺田孝重さんのお宅は、北側の苅田村の庄屋でした。苅田は幕府領と高槻藩領があり、寺田家は同じ高槻藩領であった七道村の庄屋も兼ねていたため、苅田以外の貴重な記録が残されています。

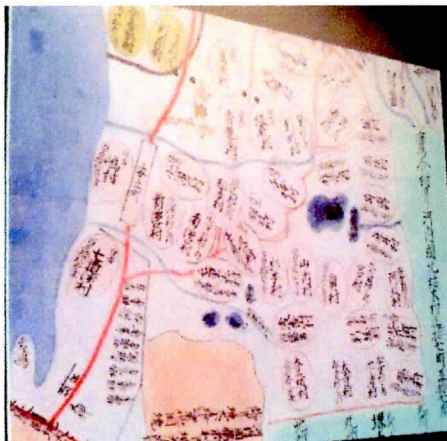
寺田さんは、苅田村寺田家文書研究会を組織され、研究成果を「摂州住吉郡寺田家文書」(2015年)「同 絵図編」(2019年)として刊行され、堺市北区役所や堺市立図書館と五箇荘・五箇荘東・新浅香山・東浅香山・光竜寺小学校に寄贈されています。

### 1704年新大和川で分断された五箇荘の今・むかし

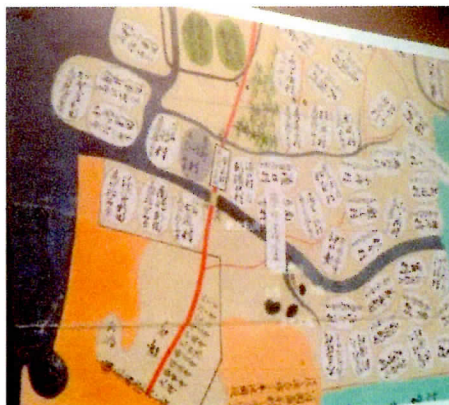
「五箇荘」の名は、1471年に我孫子屋次郎の土地集積の記録として初めて現れます。その頃、苅田には茶畑があり、五箇荘(苅田や我孫子)に金屋<sup>かなや いもじ</sup>(鋳物師)がいたと記録され、鋳物師遺跡が見つかっています。

大坂・平野・堺に近い重要地の五箇荘を、1569年に信長が領有し、今井宗久を代官とし、秀吉が引き継いでいます。

寺田さんは、大徳寺文書(1471)・今井宗久の知行目録(1583)や慶長国絵図(1605)・正保国絵図(1645)・元禄国絵図(1702)天保国絵図(1838)や前後しての寺田家文書や絵図を駆使して、地域の変遷を興味深く話されました。



1702年 元禄国絵図の部分 庭井村 苅田村の西にあるのが依網池。2年後、大和川はこの池のまん中をってつけかえられる。



大和川が太く通る 天保国絵図 1838年。



天保国絵図の下図(寺田家によって提出した写し) 浅香山の対岸にも林が描かれている。流れ込む狭間川や西除川などを描いてないのはなぜ? 黄色が摂津国 茶色が河内国